

2021年度 春出発 Business Studies Abroad II・IV 募集要項

<http://ritsumei-ba-gblp.jp/>



INDEX

1	Business Studies Abroad II・IV募集の流れ	P. 1
2	Business Studies Abroad II・IVとは？	P. 1
3	応募資格について	P. 2
4	留学予定先について	P. 2
5	学籍と受講登録について	P. 3
6	留学決定後の事前ガイダンスについて	P. 3
7	応募書類について	P. 3
8	選考方法について	P. 4
9	留学に関わる費用・奨学金について	P. 4
10	単位認定と成績評価について	P. 5
11	注意点	P. 5
12	個人情報について	P. 5
13	派遣先大学紹介	P. 6
14	立命館大学経営学部 BSAプログラムに参加するにあたっての遵守事項	P. 10

新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、みなさんの安全を第一優先とし、留学の選考や派遣の中止を判断する場合がありますので、その点ご了承ください。なお、派遣の最終判断は、派遣時期のおよそ3か月前を目途に全学・学部の方針に基づき行う予定です。

1 Business Studies Abroad II・IV募集の流れ

応募・選考等のスケジュールについて(選考年度:2020年度)

日程	時間等	場所	内容
9月上旬情報公開/ 9月30日(水)12:15～	ガイダンス・体験談: 12:15～12:50	manaba+R>経営学部生のページ>留学・外国語学習>【BSA】経営学部独自留学プログラム	プログラムの特徴や、先輩の体験談動画を配信します。(※応募開始案内・manaba+Rに掲載)/BSA II・IVガイダンス@ZOOM (※リンク詳細は開催近日にmanabaにて案内予定)
9月25日(金) ～10月8日(木)	9:00～17:00	BSAのHP/ ba-koku@st.ritsumei.ac.jp に 申請資料一式を添付して提出	応募書類配布・提出期間/提出方法
10月13日(火) ～10月19日(月)	申請書類受付時に調整・ 確定後別途個別お知らせ	ZOOM	面接期間 ※30分間程度の個人面接を実施します。
10月28日(水)	10:00	manaba+R >大学からのお知らせ >「留学・語学」	合否結果発表
11・12月頃	別途案内	別途案内	合格者顔合わせガイダンス

新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、みなさんの安全を第一優先とし、留学の選考や派遣の中止を判断する場合がありますので、その点ご了承ください。なお、派遣の最終判断は、派遣時期のおよそ3か月前を目途に全学・学部の方針に基づき行う予定です。

2 Business Studies Abroad II・IVとは？

BSA II・IVは、経営学部で学んでいる皆さんに、自らの専攻する学問に対して国内だけでなく、グローバルな社会の要請や意義を確かめ学んでいただく、経営学部独自の留学プログラムです。

留学先大学で修得した外国語や専門科目は、経営学部の単位として認定されます。そのため、留学前の本学での学修と留学先での学修を積み上げていけば、留学により卒業が遅れることはありません。またこのプログラムの基本は交換留学であり、学費は本学と留学先大学との間で相殺になるため(派遣型留学を除く)、留学先に学費を支払う必要はありません。

「立命館大学海外留学チャレンジ奨学金」に基づき、留学期間に応じて奨学金も支給されます。

BSA II・IVは、国際経営学科で学ぶ皆さんが、グローバルな視点に立って世界を舞台に活躍する「ビジネス・リーダー」になるために開発されたプログラムです。

共通	<ul style="list-style-type: none"> 経営系の大学やビジネススクールで各自の経営学の専門分野に応じた正規留学科目を受講することができます。 原則、中国の大学では中国語、それ以外の派遣先大学では英語で開講される授業を受けることになります。派遣先大学によってはその派遣先国の言語で開講される授業も受講できます。また、各自の語学レベルによっても派遣先国の言語で開講される授業の受講が許可される場合があります。 	BSA II	1セメスターの交換型留学
		BSA IV	2セメスター、3セメスターの交換型 / 派遣型留学

* 経営学部では、長期留学予定学生が留学派遣先大学でより充実した学習ができるよう、留学前もしくは留学後の教育として、英語もしくは中国語による「プロジェクト研究(GBLプログラム型)」を開講しています。GBLとはGlobal Business Leadershipの略称で、「プロジェクト研究(GBLプログラム型)」とはグローバルな視点に立って世界を舞台に活躍するビジネス・リーダーの育成を目標に設計されている科目です。BSA留学プログラム、および全学留学プログラムにて海外に留学に行く学生はぜひ受講してください。

3 応募資格について

プログラムの応募資格は次の1)～6)の通りです。

- 1) 応募時に経営学部2・3年生であること。(3回生の応募は、BSA II のみとなります) ※大学院生は対象外です。
- 2) 累計もしくは直近セメスターのGPAが2.75～3.0以上であること。
- 3) 留学先の定める語学基準を満たしていること。
 ※詳細は「4-1. 派遣先一覧」の語学基準欄を参照してください。
 ※経営学部では申請と所定の審査に基づき、講座や検定試験の受講・受験料の補助を下記の通り行っています。
 manaba+R > 経営学部生のページ > 学費・奨学金・補助金 > 英語検定受験料補助 / 外国語講座受講料助
- 4) 本プログラムの趣旨・目的を理解し、留学前、留学後に行われるガイダンスやオリエンテーション、現地での学修のすべてに参加可能であること。
- 5) 留学先のプログラムについて、多大な関心と意欲を持っていること。
- 6) 留学直前のセメスターに立命館大学に在学していること。

4 留学予定先について

4-1. 派遣先一覧

国・地域名	派遣先大学	所在地	派遣期間(※1)		派遣人数(※2)	GPA	語学基準(※3)
			II	IV			
中国	大連外国語大学 (交換留学)	遼寧省大連市 (旅順)	春出発 2月下旬 ～7月中旬	春出発 2月下旬 ～翌年1月中旬	3名程度	2.75 以上	派遣までに新HSK4級(180点～194点)または中国語検定3級を取得することが望ましい
	対外経済貿易大学 (交換留学)	北京市	春出発 2月下旬 ～7月中旬	春出発 2月下旬 ～翌年1月中旬	1名程度		BSA II : 応募時に新HSK5級(195点～209点)以上 BSAIV : 派遣までに新HSK4級(180点～194点)以上を取得することが望ましい
ドイツ	アーヘン 応用科学大学 (交換留学)	アーヘン	春出発 3月上旬～7月 (春期集中ドイツ語 コース含む)	/	3名程度	2.75 以上	IELTS 5.5以上
ドイツ	ブレーメン州立経済工 科大学	ブレーメン	春出発 4月初旬 ～7月下旬	春出発 4月初旬 ～翌年2月下旬	2名程度	3.0 以上	TOEFL iBT®テスト71点以上/ または、IELTS5.5以上

(※1) 派遣時期は若干ずれることがあります。(※2) BSAIVで学生を派遣する際の派遣人数を記載。

(※3) 対外経済貿易大学の語学基準(新HSK)は、BSA II への応募時のみ必須条件です。

4-2. 授業形態

【中国語基準による留学】

- ・対外経済貿易大学では次のような学修が可能です。
 - ①BSA II (0.5年)の場合、上記語学基準を満たした上で、中国語で専門科目を履修する。
 - ②BSAIV (1年)の場合、ビジネス中国語、中国語で専門科目を履修する。
 ※語学学習を目的として留学を希望する方には、大連外国語大学への応募を推奨します。
- ・大連外国語大学では次のような学修が可能です。
 - ①中国語科目、一部の経済・経営科目を履修する。
 ※経済・経営科目を受講する場合は、新HSK5級(210～300)以上の取得が条件です。
 - ②インターンシップ(別途審査があります)を受講。但し、インターン先はご自身で探していただきます。

【英語国語基準による留学】 - 各自の専門分野に応じたビジネススクールの正規科目(英語開講科目)を受講。

- ・各大学とも現地の言語の初歩レベルの科目を履修可能。
- ・また、現地の言語のレベルにより正規科目(現地言語にて開講される科目)を受講できる可能性があります。

5 学籍と受講登録について

5-1.学籍

BSA II・IVにて留学する際に、立命館大学での学籍が「在学」から「留学」に変更になる期間は以下の通りです。

派遣大学	BSA II	BSAIV
大連外国語大学(春出発)	春学期	春学期・秋学期
対外経済貿易大学(春出発)	春学期	春学期・秋学期
アーヘン応用科学大学(春出発)	春学期	
ブレーメン州立経済工科大学(春出発)	春学期	春学期・秋学期

5-2. 帰国後受講予定の立命館大学開講科目 受講登録について

【受講登録については以下の手順で行います】

留学適用期間最終学期の授業開始日までに「留学終了届」が提出された場合は、通常授業の受講が可能となります。

- ・ 時間割および履修・登録の手引きは、manaba+Rに掲載されるので各自確認してください。
- ・ 登録方法、期間、時間は全て日本で登録する学生と同じ条件であり、かつ日本時間で管理されます。

【抽選科目に関する注意点】

抽選科目は一旦受付がされると、一切削除することはできません。

- ・ 抽選科目は、Web申請受け付け後、空きのあるクラスについて、追加募集がかけられる場合があります。
- ・ manaba+Rを随時確認してください。

6 留学決定後の事前ガイダンスについて

留学前に2～3回程度ガイダンスを行います。派遣には、このガイダンスへの出席が必須です。ガイダンスに出席できない見込みがある場合は、BSA II・IVに応募出来ません。

許可を得ずにガイダンスを1回でも欠席すると、派遣先大学での留学参加を取りやめる場合がありますので、注意してください。

また、保健センターが主催する健康管理ガイダンスや危機管理ガイダンスにも必ず参加してください。

※原則、授業以外での欠席理由については一切許可しません。予めご了承ください。

7 応募書類について

7-1.応募書類

- 1) BSA II・IV応募書類チェックリスト
- 2) BSA II・IV申請書
- 3) BSA II・IVを希望する理由
- 4) 進路計画書
- 5) 直近セメスターのGPAを確認できる書類

※CAMPUS WEBにログインの上、直近の「GPA一覧」および「科目一覧」をスクリーンショットし、PDF化してください。

※成績証明書は累積GPAが掲載されていない為不可

- 6) 外国語検定試験のスコア証明書(スキャンしてPDF化)

※派遣先大学に書類を送付する日から遡って2年以内に受験したもののみ有効。

【英語圏】

TOEFL iBT®テスト またはIELTSのスコア表のコピー

【中国語圏・大連外国語大学】

(検定受験済みの場合): 中国語検定またはHSK(漢語水平考試)スコア表のコピー

【中国語圏・対外経済貿易大学】

(BSA IIに応募する場合): HSK(漢語水平考試)スコア表のコピー

- 7) パスポートの写し(有効期限内のもの)

※派遣先の国によって入国時やビザ申請時にパスポートの残存有効期限に条件があります。

各自条件をご確認の上、有効期限には十分注意してください。

8-2. 応募用紙の配布・受付場所

【応募用紙配布】: BSAホームページ<<http://ritsumeib-gblp.jp/>>よりダウンロード

【受付場所】: ba-koku@st.ritsumeai.ac.jp に申請資料一式を添付して提出

※PDFフォームに直接必要事項を入力、またはPDFを出力し自筆で記入・スキャンの上提出してください。

※受付時間を厳守してください。提出締切日以降は一切受け付けません。

※申請書類提出時にメールにて面接可能日時を複数提示してください。調整確定したスケジュール等を案内します。

※最終日ではなく、事前に十分余裕を持って書類を準備してください(不備がある場合は受理できません。)

8 選考方法について

選考は、申込レポート・成績・派遣先大学が求める語学基準を満たしているかを重視して、担当教員が書類及び面接審査を行い、経営学部教授会での審議を経て決定されます。

9 留学に関わる費用・奨学金について

交換留学の場合には、学費は本学と留学先大学との間で相殺になるため、留学先に学費を支払う必要はありません。

9-1. 主な費用

- ・包括海外旅行保険費用(※派遣者全員、大学が指定する保険に加入)
- ・ビザ取得の為にかかる費用
- ・渡航費(航空券)
- ・現地出入国税、空港税、航空保険料
- ・寮申請費および寮費
- ・現地での交通費
- ・教材費等
- ・クリーニング代、通信費、お土産代などの雑費
- ・娯楽費
- ・医療費(特に現地での歯の治療にかかる費用は日本の数十倍かかる場合があります)

【注意点】

- ・寮費、教材費等は派遣先大学で徴収されます。
- ・派遣先大学の事情により、学生寮に必ずしも入れるとは限りません。その場合は、速やかに経営学部事務室までご相談下さい。
- ・費用は、物価の上昇、為替相場によって変動しますのであくまでも参考としてください。

参加費用の過年度実績については、「2020年度 BSAの手引き」P20を参照してください。

9-2. 奨学金

1) 立命館大学海外留学チャレンジ奨学金

原則として派遣者全員に「立命館大学海外留学チャレンジ奨学金」が支給されます。なお、奨学金は派遣中に学生本人名義の口座に支給されます。

派遣先大学名	プログラム名	派遣期間	奨学金金額
大連外国語大学	BSA II	1 Semester	15万円
対外経済貿易大学			25万円
アーヘン応用科学大学			
ブレーメン州立経済工科大学	BSAIV	2 Semester	20万円
大連外国語大学			30万円
対外経済貿易大学			
ブレーメン州立経済工科大学			

※奨学金の金額は今後変更となる場合があります。

2) 立命館大学海外留学サポート奨学金

経済上の事由により、プログラムへの参加または参加継続が困難であることが見込まれる者に対し、参加費用の一部を補助することによって、参加の支援を行うことを目的とする制度です。

海外留学サポート奨学金には、「予約採用型」「家計急変型」の2つのタイプがあり、いずれも要項に定められた家計基準を満たす場合に、奨学金選考の対象となります。

給付額や申請・選考方法などの詳細は、以下を確認してください。

<http://www.ritsumeit.ac.jp/studyabroad/planning/scholarship/>

3) JASSO(独立行政法人日本学生支援機構)海外留学支援制度

立命館大学から支給される奨学金とは別に、JASSO(独立行政法人日本学生支援機構)が所管する奨学金に採択された派遣国がある場合は、別途受給要件を告知した上で選考を行います。

※奨学金によっては併給できないものがあります。事前に経営学部事務室またはOIC国際教育センターに確認を行ってください。

10 単位認定と成績評価について

単位認定について(※学修要覧(全学部共通編)P.25 より抜粋)

<規程:学則第37条、第39条、第40条、第41条>

- ① 海外留学や単位互換制度等他大学で修得した単位は、60単位を超えない範囲で本学における卒業に必要な単位として学部の教授会で審議のうえ学部長が認めることがあります。なお、60単位の上限は、個々の制度・プログラム毎ではなく、他大学等で修得した単位全体の上限となりますので、注意してください。
- ② 入学前に修得した単位を認定された場合(本学の科目等履修生として入学前に単位を修得した場合、社会人方式または社会人方式<AO方式>)は、①と合わせて60単位(うち入学前単位認定の上限は30単位)が上限となります。
- ③ 留学先で修得した単位の認定にあたっては、帰国後速やかに「留学終了届」と「単位修得願および単位認定書」を学部事務室に提出することが必要です。単位認定時期は、留学終了日を含む学期の末日となります。

※認定された単位の成績評価には「T」が記載されます。

※単位認定に関わる申請書類および派遣先大学の成績証明書、受講した科目のシラバス(原文及び和訳)、派遣先大学の学年暦を各自準備し、提出する必要があります。

留学前より履修科目や単位認定について窓口で相談の上、留学中と帰国後の学修計画を立てておく必要があります。

■ 過年度派遣学生の単位認定実績(参考)

派遣先大学	BSA II	BSA IV
大連外国語大学	10～25単位	40～50単位
対外経済貿易大学	10～20単位	40～50単位
アーヘン応用科学大学	8～15単位	10～20単位
ブレーメン州立経済工科大学	8～15単位	10～20単位

※単位認定数や単位認定分野・科目については、派遣先や各自の履修状況により異なりますので、ご注意ください。

11 注意点

- 1) 派遣先大学への応募書類の準備、ビザの申請、航空券の手配などは全て各自で手続きする必要があります。経営学部事務室では対応していません。
- 3) 現地での留学・実習期間が定期試験の追試や成績確認制度の日程と重なる場合は、それらを受けることはできません。また、それに対する特別措置はありません。
- 2) 経営学部での選考において派遣内定者として決定したのち、派遣先大学に応募書類を送ります。受入の可否についての最終決定権は派遣先大学にありますので注意してください。また、派遣先大学によっては応募時に別途インタビューなどが課せられる場合があります。
- 3) 留学先での履修については、派遣先大学での規定に則ります。言語能力や履修規定によって履修科目が制限されることがあります。また、正規科目以外の語学科目(ESL等)や、履修する科目があらかじめ指定される場合もあります。
- 4) 本学及び派遣先が定める期間内に出入国するようにして下さい。(アジア圏は、プログラム開始・終了日の前後3日以内。その他の国地域は、プログラム開始・終了日の前後5日以内)
- 5) 日本学生支援機構奨学金受給者の方は、派遣決定後速やかに学生オフィスに報告を行い、必要な手続きを取ってください。
- 6) 3年生・4年生時に留学に行く場合、就職活動など個人的事由による帰国は一切認められませんので、事前に必ずキャリアオフィスや経営学部事務室に相談してください。

12 個人情報について

応募書類に記入する個人情報は、本学からの連絡に使用するほか、今後のプログラム内容の改善を図るための学内統計資料として、個人を特定することのできない形に加工した統計処理用のデータとして使用することがあります。

また、本学が留学の参加者に代わって派遣先大学、旅行会社、保険会社、危機管理支援サービスを提供する会社、海外用携帯電話レンタルサービスを提供する会社、航空会社、関係省庁および在外公館等に、必要な情報についてのみ提供します。

13. 派遣先大学紹介



国・都市: 中国・大連市

中国の東海岸に位置し、中国東北遼東半島の最南端にあります。緯度は日本の仙台とほぼ同じです。中国の重要な港、貿易、工業、観光の都市です。

■創立: 1964年
 ■学生数: 約15,000人
 ■大学の特徴:

- ・中国東北地方唯一の外国語大学。漢学院、日本語学院などがあり、本校、分校、研究所など20ヶ所以上の施設を有しています。
- ・漢学院は中国で最も早く中国語言語本科を設けた学校の一つであり、設立20年で30ヶ国から長期留学生約10,000人、短期留学生約4,000人を受け入れています。
- ・漢学院には、中国文化と国際経済貿易の二つのコースが設けられており、中国文化コースで短期間に中国語のレベルを向上させることも可能です。
- ・2013年5月より大連外国語学院から大連外国語大学へ改名されました。

大連外国語大学

過年度派遣学生体験記
(2019年夏期 BSA II・男性)

「留学中に困ることなんてないだろう」そう思って出発した私ですが、約4ヶ月を振り返ってみると銀行開設、入学手続き、日々の学習面など、様々な人の助けをもらい無事に留学生生活を終えることができました。留学は今まで2回経験したことがあったので、カルチャーショックを受けるということは全くなかったのですが、過去の留学とは異なり日本語でサポートしてくれる先生がいなかったため、自力で解決する必要がありました。初めの1週間で生活に必要なものを揃え、授業が始まりました。私のクラスだけ偶然日本人が一人だけだったのですが、そのおかげで私の課題であったスピーキング能力とリスニング能力を向上させることができました。日本で中国語を学習していた時もリスニングとスピーキングだけは授業内では微々たる向上でしたが留学中の普段の生活を通じて習得することができました。もし、クラスに日本人がたくさんいたら成果は少なかったに違いないと思います。

私は留学するまで大連はとても小さな街で、寒い、親日という印象しか持っていませんでした。実際行ってみると、方言が強い面や、比較的親切な中国人の方が多いという印象を受けました。また、ロシアと韓国に近い位置に存在するため、ロシア人と韓国人の留学生の割合が今までの留学の時よりも多かったです。メディアでは日韓関係がよくないといった報道がされているけれど留学生はそのような感情を一切持っておらず、たくさんの韓国人と親しくなり、1月の末に韓国で会う計画もできました。今までは韓国に行きたいと思ったこともなかったけど、このような関係を築くことができたのは大連で留学をしたことによるものだと思っています。

私は3回生の後期を利用して留学をしました。大学生活最後のチャンスという反面、正直就活や現地での生活に多少の不安を抱えて、留学をするか非常に迷いました。留学書類締め切りまで迷っていたのが最近のように鮮明に覚えています。しかし、最終的に留学しようという決断に至ったのは「行かずに後悔より行って後悔しよう」という覚悟ができたからです。その結果現地で思い切って自分のしたいこと、学びたいことを目一杯することができ、本当に行ってよかったです。行っていなかったら確実に後悔していたと思います。私は大連外国語大学で過ごした約4ヶ月半かけがえのない思い出、友達、学習をすることができました。もし、悩んでいる人は何でも相談に乗るのでいつでも尋ねてください。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
1限目	精読	精読	精読	精読	聴力	休憩 観光 外食	休憩 観光 外食
2限目	閲読	聴力	口語	閲読	口語		
3限目	語法	自習	自習	語法	太極拳		
4限目		自習	自習				

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

对外経済貿易大学



国・都市: 中国・北京市

中国の首都、政治・文化の中心地である。故宮、天壇など多数の世界遺産がある。

■ 創立: 1951年

■ 学生数: 約18,000人

■ 大学の特徴:

- ・北京市北東の市街区に位置し、近隣には中日友好病院や、日本でも馴染みの深いスーパー等の便利な施設があります。
- ・国際経済貿易の専門家養成の高等教育機関として、国家「211」プロジェクトが初めて承認した重点大学。経済、金融、管理等の分野において一流の水準を有する大学です。
- ・中国で最も早く国際学術交流を展開した大学であり、現在、世界の30ヶ国以上の国や地域にある100以上の大学や研究機構と協力交流関係を結んでいます。



過年度派遣学生体験記
(2017年度春期 BSAIV1.5年・男性)

「中国」と聞いたら皆さんまず何を思い浮かべますか？ 中国に留学する前の私だったらたぶん「世界で一番人口が多くて、空気が汚くて、食事が辛い」等の表面的なことを述べていたと思います。ただ1年半の中国での生活を経験した今、この質問の答えを考えると「面白い国」という言葉が頭に浮かびます。それには大きく4つの理由が考えられます。

1つ目は中国での生活を通じて中国語の上達を肌で感じる事ができたことです。留学当初はレストランでの注文や学校での手続きにおいて簡単な言葉すら通じず、中国語の授業においても中国語で説明を受けるため初めはちんぷんかんぷんの中経過していました。しかし、毎日授業で中国語を聞いていると少しずつ分かるようになりました。英語と同じように現地の人と中国語でコミュニケーションを取れた時の喜びは格別であり、また同時に言っている意味が分からないととても悔しかったです。その繰り返しで今では中国語でそれなりの会話ができるようになり、それだけでも中国に行った意味があったなと思います。

2つ目は様々な人種・年代の人と関わることができたことです。中国人の正規生をはじめ、世界各国から来ている留学生、同じ志を持った他大学の日本人留学生、働かされている駐在日本人の方々との出会い、その他にもたくさんのご縁があり、数多くの経験をさせていただきました。日本では絶対に知り合うことのない人々と知り合い、良い人脈を築けたと同時に、その存在は異国の地での生活においてとても心強いものでした。このおかげで、留学生活が充実したものになりました。

3つ目は交通費が安く時間がたくさんあったという理由から、中国の各都市に旅行できたことです。中国は国土が大きく様々な観光地が全国に散らばっています。中国の観光地は日本とは雰囲気は全く違い、壮大で驚かされるような土地が多く、今でも良い思い出として残っています。

そして、4つ目が文化の違いを学ぶことができたということです。中国は日本の隣国であり、外見は非常に似ていますが、面白いことに話す言葉は違うし、生活習慣や考え方も全く違います。留学当初はフラストレーションが溜まるのをよく感じていました。しかし、生活するにつれてそれは文化の違いであり、この地では普通の事であるから、私が合わせるべきなのだ気持ちを切り替えることができました。今考えると、このことに気付いてから言語の上達も感じられるようになりました。言語はその国の文化であり、現地に行かないとなかなか理解することはできず、また、文化を理解することは最も難しいのだと気づきました。この気付きは、今回の留学で一番の収穫だったと思います。

この他にも数多くの出来事があり、また時にはもちろん嫌なこともありましたが、そのすべてに共通していることは「経験」そして「視野が広がる」ということだと思います。知らない世界に足を踏み出すというのは勇気がいることで、心配事や不安もつきものですが、それ以上に何らかの収穫があると思います。その収穫がいいことは限りませんが、絶対に無駄にはならないと思いますし、それはやった者にしかわからないことだと思います。自分の目で見えてみることで、他の人と違う感じ方があるかもしれません。やるかやらないか迷っている場合は、ぜひまず行動を起こしてみてください！

※先輩体験記より抜粋

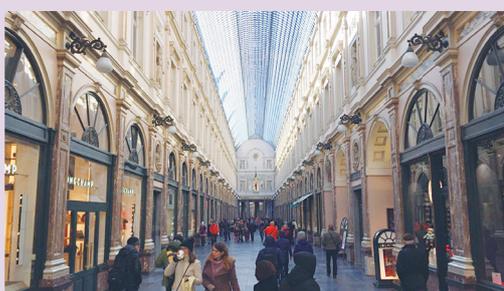
週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	総合／聴力	総合／読解	総合／聴力	総合／読解	読解／総合	観光など
午後	自習	自習	自習	自習	自習	
夜		買い物		買い物		

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

※派遣学生の語学レベルによっては、英語開講、または中国語開講の専門科目を履修することが出来ます。

アーヘン応用科学大学



国・都市:ドイツ・アーヘン

電車でパリから約2時間半、ブリュッセルからは約1時間。車で30分ほど行けばオランダ/ベルギー/ドイツ3ヶ国の国境地点に到着する。古代ローマ帝国時代から温泉保養地として知られており、8世紀末には、一時、フランク王国のカルル大帝が王宮を置き事実上の首都となった。

- 創立: 1971年
- 学生数: 13,000人
- 大学の特徴

- ・ 世界中の170大学と協定を持っているが、現在日本での交換協定校は立命館大学経営学部のみ。
- ・ ドイツの新聞社(Die Zeit)による大学ランキングのビジネス部門でトップにランキングされている。
- ・ 10学部からなり、アーヘン内の4キャンパスとユーリッヒの1キャンパス、計5キャンパスで開講されている。



過年度派遣学生体験記 (2017年度夏期 BSA II・女性)

私にとって2度目のドイツ滞在は、6ヶ月間のアーヘンでの留学生活でした。留学するまではよく知らない街だったのですが、実は神聖ローマ帝国の時代に有名な場所であったり、世界遺産である大聖堂があったり、ドイツで有名なクリスマスマーケットにおいて国内で5本指に入るほどの人気地であったりと、魅力が詰まった場所でした。また、アーヘンはドイツ・オランダ・ベルギーの3国が接する場所の近くに位置するので、バスや電車に少し乗るだけで、他の国に行くことができます。学生の街として知られており、賑やかですが、自然豊かでもあり、ゆったりと過ごせる場所もたくさんありました。

アーヘン応用科学大学では、主にビジネスについて英語で学んだほか、ドイツ語の授業をドイツ語で説明を受けながら受講することも出来ました。授業は基本的には20人くらいの人数で行われ、多くても70人ほどでした。フランス、ポーランド、スペイン、カザフスタン、アルメニア、中国、韓国、アメリカなどさまざまな国からの留学生とともに学びました。授業は先生が作り上げるのではなく、生徒も積極的に参加して作り上げていく形でした。自分の意見をしっかりと言うことが出来ないときはやはりしんどい思いもしましたが、周りの友達が意見を聞いてくれる環境はありがたかったです。

ドイツで生活して強く感じたことは、多民族国家であるドイツでは、いろいろな人種の人がいる生活が当たり前であったということです。日本に住んでいると外国人に出会うと『観光客なのかな』と考えることが多いと思います。ドイツではそもそも、どの人がドイツ人であるか/そうでないかが見た目からは区別がつかず、本当にさまざまな人種の方がいるゆえに、ドイツ人らしさとは何かがよくわかりませんでした。それぞれの人種を区別して捉えるという考え方はあまり良くないかもしれませんが、私はそのように強く感じました。隣国と陸続きで、移民の受け入れを多く行っているがゆえの実情を体感できたように思います。

留学生活全体を通して私が思ったことは、行動力・瞬発力の大切さです。ドイツに住む人はコミュニケーションを多く取っていて、バスで出会った初対面の人に声をかける方がいたり、わからないことがあればすぐに聞いたり、それにすぐ答えてくれる誰かがいるという状況を普段の生活の中でよく目にしました。赤の他人同士であっても、困ったときはとっさに協力し合っている姿を目にすることができたのはドイツのいいところだと思いました。日本にいたとき、なにか手助けをした方が良かったと思われる状況で自分の中で相手がどう思うかを勝手に推測し、さまざまな理由をつけて動かないことがありましたが、その葛藤自体がもったいないのだと気付きました。なので、日本に帰ってきてからは、まずは手を差し出すというスタンスで生活しています。動いてよかったと思うことが圧倒的で、これを当たり前に行っているドイツの人の在り方は見習うべきだと感じました。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	自習	国際経営演習	マーケティング論	ドイツ語講座		買い物、 ジャズダンスレッスン など
午後		情報技術講義	情報技術講義	マーケティング論 欧州ビジネス管理論	欧州ビジネス管理論	

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

ブレーメン州立経済工科大学



国・都市：ドイツ・ブレーメン
ブレーメンの特徴：

中世以来の自由都市として地位を現代まで維持している。ブレーメン州はブレーメン市と、ブレーマーハーフェン市の2都市からなる。

■創立：1988年

■学生数：8,000人

■大学の特徴：

- ・州立単科大学で、ヨーロッパはもちろん世界の大学と交換留学協定を結んでおり、留学生の受入体制も整っています。学生の約10%が外国籍です。
- ・ドイツで最も新しい大学の一つであり、単位互換性の高さや国際性が特色。ドイツ国内の複数の賞を受賞し、2001年にはドイツ学術財団連盟より「改革単科大学」の名称が与えられました。
- ・BSA学生は経済学部の特別プログラムに参加します。ドイツ語および英語コースが開講され、それぞれの言語で専門科目に参加する事ができます。
- ・タンデムの制度あり。



過年度派遣学生体験記
(2017年度夏期 BSAIV・女性)

私は旅行で海外へ行ったことは何度かありましたが、長期滞在はこの留学が初めてでした。留学中は6人の留学生達とシェアハウスで生活していました。初めは少し緊張しましたが、皆フレンドリーでとても安心したのをよく覚えています。ホームパーティーなどで友達の輪も広がり、シェアハウスでの生活を選んで良かったと思っています。家の掃除問題で揉めたことは何度かありましたが、それも今となっては良い思い出です。

日々の過ごし方は人によって様々で、私は午前中にビジネスの授業、午後はタンデム、夜にドイツ語の授業というスケジュールを組んでいたの、一日中大学で過ごす事がほとんどでした。タンデムとはパートナーと互いに言語を教え合う時間で、私の留学生生活の大部分はこの時間で占められていたと言っても過言ではありません。各セメスター6~7人のタンデムパートナーがいたので、ドイツ語の授業のみ受講していた学生と比べると、毎週10時間ほど多くドイツ語を勉強していた事になります。留学して初めてドイツ語の勉強を始める人もいますし、願えば英語でのタンデムもしてもらえるので、ドイツ語の知識がない人でも心配ありません。

タンデムパートナーとは勉強だけでなく、旅行やパーティーなど、共に過ごす時間が多かったため、お互いの将来についてなどもよく話しました。そこで日本とドイツの文化や社会の違い、そして考え方の違いに気づかされる事が多々あり、改めて私は日本人なのだと感じさせられました。留学をする前は気づかなかったのですが、やはり自分の価値観など全てがヨーロッパの人々とは違い、良くも悪くも日本的だと自分を見直す事ができましたし、他国の文化を今までよりも理解できるようになったと思います。

留学生生活の終盤に、現地の友人に私の第一印象を聞いてみたことがあります。その答えは「日本人らしい小さな女の子」でした。今の印象は？と聞いてみると、「もう小さい女の子ではないね。全て完璧という訳ではないけれど、自分のやりたいことを何でも挑戦して、強くなったと思う。」と返ってきました。ドイツに来て、行動力のある学生たちを目の当たりにして、自分もこの様になりたいと思っていたので、その言葉がとても嬉しく、留学して良かったと強く感じました。

もちろん誰の助けも借りずに自分の力だけで過ごしてきた訳ではありません。多くの人の支えがあってこの留学を無事に終えることができました。ブレーメンで体験した事、学んだ事、出会った人々、全てが今私にとって大きな財産です。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	タンデム (ドイツ人とペアを組み、 お互いの言語を教えあう 時間)	授業 (Global Marketing など)	自習	授業 (Strategic Management など)	授業 (Social Media Marketing など)	イベントや 小旅行
午後	タンデム 英語授業	タンデム ドイツ語授業	授業 (Elements of Corporate Finance など)	タンデム	自習	

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

【立命館大学経営学部 BSA プログラムに参加するにあたっての遵守事項】

「BSA プログラムに参加するにあたっての遵守事項」

1. 基本姿勢

立命館大学 BSA プログラム（以下「プログラム」という。）に参加する学生は、次の点を遵守しなければならない。

- (1) プログラムの目的と主旨を理解し、積極的にまじめな態度で勉学に励まなければならない。
- (2) 立命館大学（以下「本学」という。）の学生として自覚と誇りを持って、本学および派遣先大学・機関（以下「派遣先」という。）の名誉を傷つける行動は慎まなければならない。
- (3) プログラム期間中は、日本の法令および本学の諸規則の他、派遣先の国・地域の法令および諸規則を遵守し、本学および派遣先の教職員の指示に従わなければならない。

2. 健康管理等

- (1) 健康管理は、自らの責任でおこない、服用の必要な医薬品や主治医の紹介状等を現地に持参すること。
- (2) 医師による診断書などに基づき、留学プログラムへの参加または継続が困難であると本学が判断した場合、これに従うこと。この際、日本国外に滞在している場合は速やかに帰国すること。
- (3) 前号によって参加または継続を中止した後、健康状態等が回復したとしても、教学上の理由等から、本学の判断によりプログラム復帰を認められない場合があることを理解すること。
- (4) 本学が指定する海外旅行保険に、留学に係る出発から帰国までの期間加入すること。また、派遣先大学から別途保険に加入することを指定される場合は、本学指定の海外旅行保険、派遣先大学指定の保険の両方に加入すること。
- (5) 既往症、現在疾患、服薬の状況等について所定の方法で事前に本学に申告すること。また、プログラム参加を許可する医師の診断書等についても、提出すること。
- (6) 傷病等により入院加療の医療措置が必要となった場合は、すみやかに本学および派遣先に報告するとともに教職員の指示に従うこと。ただし、これらの措置に必要な費用の内、保険の補償限度額超過分については、本人が負担すること。
- (7) プログラム期間中、傷病等により、保証人による救援などが必要と本学が判断した場合、保証人に対し、本学の指示に従って行動するよう、予め了承を得ること。ただし、これらの措置に必要な費用の内、保険の補償限度額超過分については、本人が負担すること。
- (8) 既往症および、現在疾患等がある状態でプログラムに参加し症状が悪化したとしても、本学および派遣先に対して、何等かの金銭的要求をせず、またはその責任を問わず、関連して必要な費用の内、保険の補償限度額超過分については、本人が負担すること。
- (9) 緊急に医療手当てまたは手術の必要が生じ、本人または保証人の同意を得る時間的猶予が無い場合は、派遣先の当該担当者の判断によって処置することに同意すること。
- (10) 本学による定期健康診断もしくは本学の指定する健康診断を、出発日から遡って1年以内に受診すること。
- (11) 派遣先大学が所在する国（地域）が指定する予防接種を、指定の期日までに受けること。

3. 経費および補償等

- (1) プログラムに要する費用（研修料・宿泊費・航空運賃・保険料等）は、指定の期日までに納入すること。
- (2) プログラムの派遣候補者として選抜されることは、派遣先大学での受入を保証するものではないこと。また、派遣先大学の事情によっては、受入が許可されない場合もあること。
- (3) 所定の期日後に、本人の傷病、処分等の理由によってプログラムへ参加または継続が出来なくなった場合、または辞退した場合には、必要経費について負担すること。
- (4) パスポートやビザの取得手続きに関する遅延および申請却下や天災・災害・ストライキ・伝染病・政治情勢の変化・戦争・テロ、その他不可抗力に起因する事態によって、プログラムの中止、中断及び内容の変更があった場合、本学及び派遣先に損害賠償を要求せず、前号と同様の費用を負担すること。
- (5) 本人の不注意または、本学及び派遣先が管理できない状況下で、事故、病気または死亡事故が発生した場合、本学及び派遣先に対して何等かの金銭的要求をせず、またはその責任を問わないこと。
- (6) 本人の所有物の盗難や損害、交通事故、刑事事件等、本学及び派遣先が管理できない状況下で発生した場合、本人の責任で対応しなければならないこと。
- (7) 本人の故意または重大な過失により、プログラムに重大な損害を与えた場合は、必要に応じ、賠償の責を負わなければならないこと。
- (8) プログラム参加に伴う渡航期間が、本学における講義・補講、定期試験、追試験等と重なった場合、特別な配慮は行われなければならないこと。

4. 個人情報取扱いに関する同意

- (1) 立命館大学経営学部事務室に届け出た個人情報について、立命館大学経営学部事務室が、旅行会社、保険会社、危機管理支援サービスを提供する会社、海外用携帯電話レンタルサービスを提供する会社、航空会社、関係省庁および在外公館に提供・共有し、プログラム運営のために利用すること。
- (2) 立命館大学経営学部事務室が、プログラム運営のために、派遣先大学等から成績情報、生活情報等の個人情報の提供を受けること。

5. 誓約書の提出

上記事項を理解し厳守するために、本人及び保証人連名による誓約書を提出すること。

「BSA I プログラムに参加するにあたっての遵守事項」

「BSA I plus プログラムに参加するにあたっての遵守事項」

「BSAIIIプログラムに参加するにあたっての遵守事項」

1. 入国・帰国

- (1) 派遣先での研修に際しては、所定の航空便等を利用して入国し、個人での入国を行わないこと。
- (2) 派遣先での研修修了後は、所定の航空便等を使用して帰国し、個人での帰国を行わないこと。
- (3) 本学および派遣先両方の許可なしに日本への一時帰国および再入国を行わないこと。
- (4) 所定の基準に基づき、学業面から留学プログラムへ参加の継続が困難と本学が判断し、帰国を命じた場合には、当該措置に従うこと。

2. 自由時間における行動

- (1) 派遣先の寮規程または入居したホームステイ先の規則に従い、生活すること。
- (2) 自動車、オートバイ、船舶、航空機等の運転、操縦および購入を行わないこと。
- (3) バンジージャンプ、スカイダイビング、スキューバーダイビング等、危険な行為を行わないこと。
- (4) 旅行または外泊をする場合は、本学の担当者に対し、所定の書類を提出し許可を得ること。
- (5) 前号の旅行または外泊の内容について、本学または派遣先から変更や中止の指示があった場合、当該指示に従うこと。

3. 報告書等の提出

本学に対して、所定の報告書等を所定の期日までに提出すること。

4. 誓約書の提出

上記事項および「立命館大学経営学部 BSA プログラムに参加するにあたっての遵守事項」を理解し、厳守するために、本人および保証人連名による誓約書を提出すること。

「BSA II・IVプログラムに参加するにあたっての遵守事項」

1. 入国・帰国

本学および派遣先が定める期間内に出国・帰国すること。

2. 自由時間における行動

- (1) 本学および派遣先が指定する居住施設に入居すること。
- (2) 派遣先の寮規程および入居した居住施設の規則に従い、生活すること。
- (3) 自動車、オートバイ、船舶、航空機等の運転、操縦および購入を行わないこと。
- (4) バンジージャンプ、スカイダイビング、スキューバーダイビング等、危険な行為を行わないこと。
- (5) 派遣先の休暇期間中に、旅行または一時帰国をする場合は、派遣先にその旨を報告するとともに、本学の担当者に対し、所定の書類を提出し許可を得ること。
- (6) 前号の旅行または一時帰国の内容について、本学または派遣先から変更や中止の指示があった場合、当該指示に従うこと。

3. 報告書等の提出

本学に対して、所定の報告書等を所定の期日までに提出すること。

4. 誓約書の提出

上記事項および「立命館大学経営学部 BSA プログラムに参加するにあたっての遵守事項」を理解し、厳守するために、本人および保証人連名による誓約書を提出すること。